

# 旧街道を歩く 太子の道を訪ねて

タウンウォッチャー 三本晴伸(穴虫)



志都美地区の田園風景(筆者撮影)

を知ります。

今回は太子道を歩いてみました。  
この道は聖徳太子が、斑鳩の宮(現在の法隆寺付近)から磯長谷(大阪府太子町)の父用明天皇御陵へまた自分の寿陵建設のために通い、その死後葬送の道として知られています。

出発は王寺町明神(美しヶ丘)への入口。道を行くと、すぐ酒屋があり、その横の小道を歩いて行きます。すぐ左手、道よりやや低いところに塔の基壇が見えます。尼寺廃寺の塔の礎石が整然と並んでいます。基壇の上から付近一帯を見渡すと、大伽藍があった様子が想像できます(本誌第六号参照)。大きな家並みをめけると華厳山般若院のそばに出ます。右に曲がるとすぐ左手に太子道の案内標識があり、その指示に従って歩きます。児童公園の隅に「太子道 法隆寺山主 高田良信」と彫られた石碑があり、太子道を大切にしている人たちがいること

白鳳台の道を横切り、石材置場を右に曲がると、ここにも「太子道」と彫られた石柱があります。まだ新しく、近年建てられたものと思われま。左に曲がると、すぐに下寺(公民館)があります。その庭に金網が張られ、中に数体の石仏が安置されています。風化が激しく、お顔のわりやくいものもありますが、太子道のそばで、通行の安全を祈っていたものが、ここに集められたものと思われる。さらに歩いて行くと前方に志都美小学校が見えてきます。西名阪道の高架下あたりまで、のどかな田園風景が広がっています。私たちが忘れかけていた風景が、まだここには残っているように思います。

高架下を過ぎると、武烈天皇御陵が見えてきます。在位九年、五十七歳で崩御されたとされる天皇は奇行が多かったといわれています(本誌第五号)。第十六代仁徳天皇の血筋はこの天皇で途切れました。その宮(皇居)は泊瀬朝倉宮と伝えられています(現在の桜井市立初瀬小学校の付近)。武烈天皇は大古墳を誇った五世紀代最後の天皇で、これ以降天皇御陵が小さくなっています。

南へ歩いて行くと、奈良県指定の志都美神社の社叢(本誌第五号)が広がっています。この辺りを見ていると五穀豊穡を願った往時は大規模であったことが想像できますが、

現在は小さくなっています。志都美神社の鳥居の前を南に行く道路角に石仏が立っています。像高二十四cmの地藏石仏で銘文は安永八亥天、右たつた、道空信士、左大坂さかい、安永八(一七七九)年四月二十一日造立とあり、道空信士の供養と街道の安全を祈って建てられたものらしいことがわかります。地藏石仏に手を合わせさらに南へ行きます。道路西側に自然石に太子道と彫られた石碑があります。この道は所々に案内標識があるので、非常にわかり易い。

前方に旭ヶ丘小学校が見えてきます。近代的な明るい小学校で、すばらしい環境の中に建っています。南から西へ大きく方向を変えていく道に沿って旭ヶ丘の麓を行くと、二上駅方面へ行く道と出会いました。

橋を渡り川沿いを西に行きます。高山台の住宅地が見えて来て、近鉄大阪線の踏切に出ます。踏切を渡り穴虫集落のはずれを右に曲がり、また西へ行きます。右前方、香芝西中学校の方向は高山台の住宅地開発が進み、緑豊かだった風景も少しずつ変わってきています。

前方に国道一六五号線、その上に山麓線の高架橋が見えて来ました。穴虫交差点付近も近年大きく変わりましたが、どんづる峯方面の風景を見ていると、昔の風情が少し残っているように思います。ここから太子道は山の中を通っていました。現在、人

の歩ける道は途切れていますので、香芝太子線を行きます。穴虫交差点から太子町方面へ二〇〇mほど行き、右手山中の急な崖を登った雑木林の中に地藏磨崖仏があります。大きな石に地藏石仏が彫られています。像高五十五cm、銘文は玉祐逆修天文十七(一五四八)年戌甲九月四日造立。安山岩製で、銘文中の「逆修」とは生前に自分のために念仏すれば死後家族が念仏するものより七倍功德があるとされ、室町時代に流行したようです。磨崖仏の前にわずかに道の跡が残り、ここが太子道だったことがわかります。ここから先はどんづる峯入口を過ぎると大阪府太子町になります。王寺町境から太子町境まで太子道を歩いて感じたことは、香芝市にも近代化・都市化の波が押し寄せ、きていくにつくことです。

しかし、二上山の緑をはじめとする、すばらしい環境がいつまでもすばらしいままであることを念じて、今回の「旧街道を歩く」を終わります。



磨崖仏(筆者撮影)